

遠州灘の波小僧伝承調査から 風景のアーカイブズとしての校歌

Research on the folklore of Nami-Kozo in the Enshu-Nada Sea
School Songs as Archives of Landscape

兼古勝史(放送大学)
Katsushi KANEKO

(キーワード)

波小僧、遠州灘、海鳴り、校歌、風景

n

1. 遠州七不思議の一、波の音・波小僧

遠州地方(静岡県西部)には「雷三里波七里」という諺がある。遠州地方の海鳴りはそれほど内陸にまで届くという例えだ。現代の単位に換算すれば 27~28Km に相当する。遠州の人々は昔からこの海鳴りの聞こえ方で天候の変化を予測していた。その内容はおおよそ「波音が東(東南)から聞こえると雨、西(西南)から聞こえると晴れ」というもので、遠州七不思議の一つとされる。この海鳴り現象が起こる由縁として語られてきたのが「波小僧」伝承である。波小僧伝承の代表的なものは「漁師の網にひっかかった(一説には、大雨で田んぼに取り残され帰れなくなった)波小僧を、海へ帰してやったお礼に、波小僧が天候の変化を海鳴りで知らせるようになった。」というもので、内陸地方では「僧侶や農民がつくった藁人形が川から海に流れ、波音で天候を知らせる」といった話も存在する

本報告は、静岡県浜松市において 2020 年から筆者らが行なってきた遠州灘の海鳴りの記憶と現状に関する共同研究の成果から、海鳴りの可聴範囲に関する調査結果の一部を、浜松市内の小中学校の「校歌」の調査を中心に報告するものである。

2. 海鳴りの記憶と現状の調査

(1) 観察・聞き取り調査と投稿情報募集、

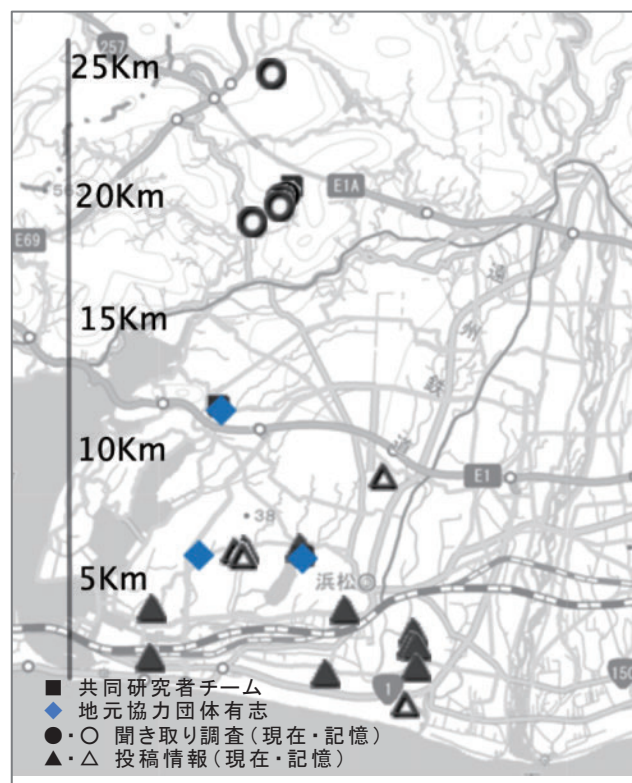


図1 波音の聞かれた地点(現在・記憶)
(※大門・箕浦・兼古, 2022 をもとに作成)
出典: 国土地理院「地理院地図 GSI Maps」
<https://maps.gsi.go.jp> から作成(図2も同様)

共同研究では、沿岸地域の地元協力団体有志との協同観察調査、筆者ら共同研究研者チームによる観察と録音調査、インターネットホームページ「遠州波小僧プロジェクト～みんなでつろう波音マップ」(<https://namikokzo.com/>)による海鳴りの現状と記憶に関する投稿情報の募集、を行った。その経緯や成果は箕浦・大門・

兼古（2021）、大門（2022）、及び大門・箕浦・兼古（2022）の報告に詳しい。これらの調査の結果から海鳴りの聞こえる・聞こえていたと思われる地域を抽出し記したものが図1である。

(2)浜松市内小中学校校歌の歌詞調査

(1)の調査結果の補足と未調査地域の情報を得るために、浜松市内小中学校の校歌の歌詞の調査を行った。

調査対象は 2005 年の平成の合併前の旧浜松市域の小中学校（小学校 64 校、中学校 32 校）計 96 校 である。対象校歌の歌詞中「波音」「海鳴り」等に関連する記述がある部分を抽出した結果、小学校 14 校（廃校 2 校を含む）、中学校 4 校、計 18 校の校歌にそうした表現が含まれていることがわかった。（図 2）

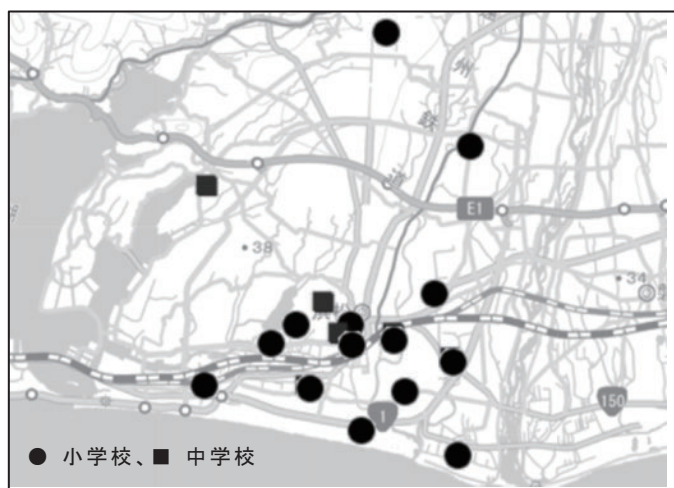


図 2 校歌に波音が読み込まれている小中学校

校歌に波音の記述のある小中学校の分布を図1の投稿、観察による波音の聞かれた地点と比較すると、近似の傾向が見て取れることから、校歌での波音への言及が（かつて）地域で実際に聞こえたであろう音環境を反映している可能性が考えらる。今後の海鳴り調査の地域選定の一つの指標になるともいえるだろう。

(3)校歌の歌詞に見られる波音の様相

図3は校歌に見られる波音の記述内容を学校所在地の緯度の低い順（おおよそ、遠州灘に近い順）に並べたものである。（表1）海から遠ざかるにつれて、言葉が変化していく

様子が見てとれる。今後は、学校の開校時期・校歌の成立年代と波音の関連等も検討していきたい。

表 1 校歌に見られる波音の記述内容

（旧）遠州浜小学校	波の音から明けてゆく 歴史伝える松林
砂丘小学校	波の調べに日は高く 希望の眉を上げながら
白鷺小学校	遠州灘のどろ浪 南に聞え朝日映ゆ
新津小学校	波も轟き潮香る 遠州灘を庭として
篠原小学校	遠州灘の浪の音 とどろと響く渚に
芳川小学校	明けゆく空に鳴る潮も 遥かな望み呼ぶところ
南陽中学校	豊旗雲 朝日に匂い 遠州灘 潮騒聞こゆ
県居小学校	南に遠州灘の荒波を 海辺の松に高鳴るを タベに聞き
入野小学校	遠州灘のどろ波 浜名へかよう潮風に
（旧）高砂小学校	浜の松風高鳴りて 真砂に寄する波の音
西部中学校	遠州灘の潮騒の音（中略）心澄まして聞きけん響き
佐鳴台小学校	磯鳴る音の聞こえる わが学び舎に学び来て
西小学校	怒涛さかまく遠州の 波の響きに誓う今
観塚中学校	今ぞ世紀の鳴る汐に
蒲小学校	打ち寄せる遠州灘の波の音 正義の潮みなぎりて
湖東中学校	輝く窓に黒潮の 遠き響きは 日に新た
中郡小学校	鳴る黒潮に胸もえて 三方おろしに励む日々
都田南小学校	遠州の潮鳴り高く この胸に望みは燃える

3. 風景のアーカイブズとしての校歌

校歌は「子どもの頃に育った環境の象徴」であり「地域の「環境意識」を抽出し、風土の分析をするための素材として役に立つ」と北村らは指摘している（北村・浅見, 1996）。校歌には郷土の風景の記憶と意識が宿っているのである。とりわけ視覚的な景観に比べて記録の少ない地域の音環境や聴覚的な記憶を今に伝えるメディアとして、風景のアーカイブズとしての可能性があるといえよう。

校歌のこうした側面は、音楽教育と環境教育、郷土教育をつなぐ可能性を示唆している。

本研究は JSPS 科研費 20K02174 の助成を受けた共同研究の成果の一部である。ご協力をいただいた、地元の住民・団体の皆様に感謝申し上げます。

参考文献

- 北村眞一・浅見雅子（1996），校歌-心-の原風景，学文社
- 大門（2022），遠州灘の海鳴り／波小僧伝承と前浜の記憶，関西大学社会学部紀要，53(2)
- 大門・箕浦・兼古（2022），遠州灘海岸における「海鳴り」の音響体的特徴の考察，日本サウンドスケープ協会 2022 年度秋季研究発表会論文集
- たけのこの会編（1983），浜松市小中学校校歌校訓集，たけのこ会
- 箕浦・大門・兼古（2021），市民との協働によるサウンドスケープ調査，日本サウンドスケープ協会 2021 年度秋季研究発表会論文集